

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 17
2017. 9

TOPICS

1

岡山から国連持続可能な開発目標「SDGs」を考える！ シンポジウムとワークショップを開催



本学と日本学術会議若手アカデミーは共催で8月31日～9月1日、国連の持続可能な開発目標「SDGs」について理解を深めるシンポジウムとワークショップを開催しました。今回は「社会の一員としての大学でこれから必要とされる考え方は一國連持続可能な開発目標を通じて考える」をテーマに、SDGsに取り組む学術の在り方や、岡山の地に根ざした取り組みとその役割について議論を深めました。

シンポジウムでは、講演やパネルディスカッションが行われ、SDGsへの理解を深めました。2日間に渡り開催されたワークショップでは、狩野光伸副理事がファシリテーターを務め、「教育」「医療」「環境」の3つのテーマに分かれて活発に討論しました。

また、横井篤文副理事・上級UGAが今年度内に継続して日本学術会議や国連機関等と連携したSDGsに関連する企画を開催していくことを公表しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6963.html



マレーシア・マネジメント&サイエンス大学長が 榎野学長を表敬訪問

TOPICS

2

マレーシア・マネジメント&サイエンス大学(MSU)のシュクリ学長(Prof. Tan Sri Dato' Wira Dr. Mohd Shukri Ab Yajid)らが8月29日、本学を訪れ、榎野博史学長を表敬訪問しました。

表敬訪問で榎野学長は、本学とマレーシアとの繋がりなどについて紹介しました。また、鹿田キャンパスでは、病院施設や医学部学生のシミュレーション実習を見学。MSUでは現在、病院を建設中であることから、シュクリ学長らは、外来システムや入院患者の家族宿泊施設など、熱心に見学しました。

MSUは、マレーシアの中心部シャーラムに位置する大学で、医学、薬学、マネージメント、情報科学などの分野で、近年注目されている大学です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6943.html



最近の大学の取り組み

スーパーグローバル大学創成支援事業 外部評価委員会を開催



本学は8月22日、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の支援対象に選定された本学の構想「PRIMEプログラム：世界で活躍できる『実践人』を育成する！」の実施状況について、平成29年度の外部評価委員会を開催しました。

前年度の取り組み実績報告や意見交換を行い、各委員から取り組み内容や今後の事業推進に当たっての留意点などの講評がありました。

スーパーグローバル大学創成支援事業は、「大学改革」と「国際化」を断行し、国際通用性や国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備支援を目的に、平成26年度から最大10年間に渡り実施される事業です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6930.html



沈副所長・教授が日本植物学会の学術賞と三木記念賞を受賞



本学異分野基礎科学研究所(RIIS)の沈建仁副所長・教授が「平成29年度(第14回)日本植物学会賞学術賞」と「平成29年度(第50回)岡山県三木記念賞」を受賞しました。

日本植物学会賞の「学術賞」は、植物科学分野で独創性の高い研究を行い、論文等が国際的に高く評価された研究者に授与されるもので、毎年1人の受賞者が選出されます。同学会賞は沈教授のほか、大賞に大隅良典・東京工業大学特別栄誉教授らが選出されています。

岡山県三木記念賞は、アジアのノーベル賞といわれる「マグサイサイ賞」を受賞した故岡山県知事三木行治氏の業績をたたえるとともに、その公共奉仕に徹した精神を生かし地域社会の発展に貢献したものを顕彰するため、「マグサイサイ賞」の賞金等を基に設立されたものです。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6960.html
http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6935.html



水泳部の中尾さんが大会新でインカレ2連覇！

本学水泳部の中尾駿一さん(マッチングプログラムコース4年生)が9月1日、東和薬品ラクトブドーム(大阪府門真市)で開かれた日本学生選手権(インカレ)の男子50メートル自由形に出場し、22秒02の大会新記録で優勝しました。昨年に続き同種目2連覇で、学生最後のインカレで有終の美を飾りました。

なお、中尾さんは、先月台北で開かれたユニバーシアード夏季大会に日本代表として出場し、50メートルバタフライで6位入賞しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6956.html



空気よりも軽い氷?! 極めて密度の低い氷「エアロアイス」を予測

大学院自然科学研究科の松井貴宏大学院生、平田雅典大学院生(ともに博士前期課程1年)、異分野基礎科学研究所の矢ヶ崎琢磨講師、松本正和准教授、田中秀樹教授の研究チームは、通常の氷よりも密度が低い氷の結晶構造について、分子シミュレーションによって網羅的な調査を実施。まだ実験で発見されていないいくつかの安定な結晶構造が存在することや、理論的に予測される低密度氷「エアロアイス」には密度に下限がなく、空気よりも軽い氷も作りうることを初めて解明しました。本研究成果は9月5日、米国物理学協会(AIP)の国際科学雑誌「The Journal of Chemical Physics」に掲載されたほか、同誌の表紙を飾りました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id489.html



“プログラミングのやる気が高まる方法”は!? プログラミングとの出会い方が子どものやる気に影響

2020年から始まる小学校のプログラミング必修化を控え、プログラミング教育の充実の重要性が指摘されており、プログラミングに興味関心を持ってもらうためのさまざまな取り組みが行われ始めました。プログラミングに初めて出会った時にプログラミングを面白いと思えるかどうかは、プログラミング学習の今後の継続に重要な影響を与えることが予想されます。

大学院教育学研究科の岡崎善弘講師とロジックラボ for kidsの大角茂之氏、駒沢女子大学の倉住友恵非常勤講師、岡山大学の三島知剛講師、青山学院大学の阿部和広非常勤講師の共同研究グループは、プログラミングを初めて体験する方法がやる気(成功期待・課題価値)にどのように影響するのか調査。(1) ワークショップに参加して一つ一つ講師と一緒にプログラムする方法、(2) 友達と一緒にテキストをみながらプログラミングを学習する方法は、やる気(成功期待・課題価値)が高まることを明らかにしました。さらに、(3) 1人でテキストを見ながら学習する方法ではやる気(課題価値)は変化しないことも明らかにしました。本研究成果は7月26日、日本教育工学会の学術雑誌「日本教育工学会論文誌」に公開されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id490.html

